

ご意見用紙

玄海原子力発電所に関する県民説明会

※この用紙は、記入後エントランスホールの回収箱にご投入ください。
 ※本日、回収箱への投入が難しい場合は、裏面記載の県内各地に設置しています県政提案箱にご投函いただくことも可能です。

* なお、ご記入の前に裏面の〈お願い〉をお読みください。

| | |
|---|---|
| テーマ | ★該当する項目をチェックしてください（複数選択可）。 <input type="checkbox"/> エネルギー政策に関すること <input type="checkbox"/> 原子力安全対策に関すること <input checked="" type="checkbox"/> 原子力災害対策に関すること <input type="checkbox"/> その他 |
| 原子力災害対策、主として避難計画と、その実効性などについて（17） 先日（2月21日）の説明会で発言したかったこと。 | |
| 「緊急時防護措置を準備する区域（UPZ）」を概ね原発から半径30km圏としていることについて、（半径80km、できれば100kmに拡大すべきである） | |
| これは、福島第一原発事故の実態を無視し、アメリカ・スリーマイル島原発事故への対処の仕方について、アメリカと日本の比較をしたのか、しなかったのかもはっきりしなかったことも含めて、教訓を引き出そうとしなかった。福島第一原発事故の教訓を守る・守らないの問題よりも、それ以前の問題である。 | |
| 福島県飯館村の状況を見れば、少なくとも50km圏を設定すべきであろう。アメリカは、スリーマイル島原発事故のあと、緊急時対策圏を約80kmの範囲に拡大している。九州電力は、中央制御室の機器の改善をしたと言ったことがある。日本は、国民の安全を無視していたことになる。原発の危険性を、国民に知らせていなかったと言われても仕方がない。福島第一原発事故が発生したとき、放射線量が上昇し（後にバント＝ガス抜きによるものと推定）、水素爆発も発生するなどしたとき、アメリカは、とんだ作戦の空母を100km東方へ避難させたと報道され、在日アメリカ人への避難指示も、100km圏外を想定したものと受けとめられるものであった。 | |
| 玄海原発の事故対策として、現在の避難経路・避難先の計画だけでよいのだろうか。 「資料3」のP.20.の右下隅に、「※自然災害等により…代替避難先を確保」とあるが、「等」には「風向き」は入っているのだろうか。1990年頃、住民参加の避難訓練が実施され、公開されたとき「風向き」への配慮がされていなしことにより受け要求したことがある。その後も、機会あるごとに指摘してきた。東松浦半島は、西～北西～北の方角からの風が多い。事故が発生したとき、北西風が吹いていたとすれば、最悪である。代替避難先が確保できるまでに、どれだけの時間・日数を想定しているのだろうか。西風が吹いていれば、飯館村の例を参考にすれば、福岡市も含まれることになり、50km圏として110万人以上になるのではなかろうか。 | |

会場名に○をつけてください⇒

唐津・武雄・佐賀・伊万里・鳥栖

所属受付印